

平成 29 年度 第 2 回小松市総合教育会議 議事録

1 日 時 平成 29 年 12 月 25 日 (月)
開会 11 時 00 分 閉会 11 時 50 分

2 会 場 小松市役所 3 階 3B 応接室

3 出席者 小松市長 和田 慎司 (議長)

小松市教育委員会

教 育 長 石黒 和彦
委 員 北村 嘉章
委 員 蘆邊 千鶴子
委 員 吉原 慎吾
委 員 中惣 恭子

(事務局関係)

総合政策部長兼経営政策課長	越田 幸宏
総合政策部 経営政策課担当課長	中野 芳美
総合政策部 経営政策課事務員	嶋田 裕介
教育委員会事務局 教育次長兼教育庶務課長	山本 裕
教育委員会事務局 教育次長	道端 祐一郎
教育委員会事務局 未来の教育課長	廣田 恵子
教育委員会事務局 学校教育課長	吉田 明生
教育委員会事務局 青少年育成課長	東谷 勝美
教育委員会事務局 学校教育課指導主事(参事(総括))	新名 孝
教育委員会事務局 学校教育課指導主事	笠巻 昭
教育委員会事務局 教育庶務課参事	池田 美和子

4 討議事項 (1) ICT 教育の役割
(2) 児童・生徒の現状と成果

5 会議の経過及び発言

○開 会

○和田市長あいさつ

- ・中惣委員は今回初めての出席となります。宜しく申し上げます。
- ・これからは幼児教育が大事である。市民の方々からの期待も高く、世の中の先を行く教育が求められている。
- ・大学が4月に開学する。受験倍率は3倍を超える見込み。

- ・世の中では科学技術の進化、グローバルの考え方が変わってきている。これから大きく変化していくため、10 年後を想定したグローバル教育など、中長期にベクトルを合わせて先取りしていくことが大切になってくる。

○討議事項

(1) ICT 教育の役割

＜事務局：新名指導主事(参事(総括))＞【資料】により説明

- ・情報教育の3つの目標
 - ①情報活用能力の育成
 - ・・・情報収集・選択判断・表現発信のサイクルを通して課題を解決する能力を小中高で身に付けていく
 - ②情報手段の主体的活用
 - ・・・機器の特徴(メリット・デメリット)を理解して、主体的に活用できる能力の育成
 - ※児童生徒に加えて、教員にも求められる
 - ③情報モラルの充実
 - ・・・教科、道徳、学級活動を通して、情報モラルの系統表を活用している。近年では中学生サミットで、生徒主体の話し合いが行われている。
- ・情報教育における ICT の活用については、教科指導における ICT 機器の活用で効果を上げている。(タブレットによる画像や動画による分かりやすい説明など)
- ・現在のプログラミング教育は、中学校・高校において行われている。中学校では平成 24 年度から「技術」の授業で簡単なプログラム作成が必修となり、高校では「情報の科学」の授業で必修となり、問題解決に ICT を活用することをめざしている。
- ・平成 32 年から小学校においてもプログラミング教育が導入されることとなっている。人工知能の急速な進化に伴い、便利さの裏側で人間のチカラがそれを支えているということに気づき、その役割を理解しながら時代に合った情報技術を効果的に活用し、課題を解決していくことが求められている。
- ・プログラミングにより論理的思考を身に付けることで問題を解決していく手順・スキルを学んでいく。プログラマーを育成することが目的ではない。
- ・今後、中学校、高校においても新学習指導要領ではプログラミング教育の充実や内容の増加が検討されている。
- ・小松市のプログラミング教育では、教育委員会において論理的に考える力を養うための教材を作成し、小学校で児童が課題解決の手順を理解することをめざしている。また、今年度、サイエンスヒルズにおいてレゴを活用したプログラミング教育を希望校 17 校で実施した。基礎的な学習を終えた生徒たちには中級、上級へ関心を持って学ぶことができる場を提供している。
- ・来年度は市内 10 校の小学校に推進協力校となってもらい、プログラミングのユニット教材で学ぶとともに、サイエンスヒルズにおいて実際に体験してもらう予定である。アンケート等で教材の改善、効果の検証を行う。平成 31 年度には全小学校で試行し、最終調整を行い、平成 32 年の本格始動時にスムーズに移行する計画である。

- ・プログラミング教育にあたる人材についても、教員やサイエンスヒルズのスタッフ、サイエンスサポーター、大学生ボランティアなどを活用していくことで、人材の充実を図りたいと考えている。

〈議長〉では、皆さんからご意見、ご質問をいただきたい。

〈吉原委員〉・技能習得がどうしても先にあると思われるが、論理的思考が身についたかどうかの評価、物差しをつくっていくことが必要。

- ・また、単なる ICT 機器の導入・活用だけでなく、時代を先取りし、それらを全てネットワーク化することで、全ての学校の教材を教育委員会で管理していくことが可能ではないか。これにより、子どもたちの学びを深めるとともに、先生方の働き方改革にもつながると思う。このようなゴールイメージを持って予算をつけて取り組んでほしい。

〈事務局：道端教育次長〉評価については、きちんとした指標はいると考えている。国にもあるが完全なものではない。考えていきたい。

〈議長〉先生の教える技術を評価する仕組みを国でつくっていると思うので、活用していってもらいたい。

〈事務局：山本教育次長〉・プログラミング教育は、おっしゃるとおり ICT の導入が目的ではなく、最終的なゴールを見据えていくことが必要である。子どもたちがどのように関わっていくかというイメージを共有していくことが大事である。

- ・共有していくためにはネットワーク化は今後必須になっていくと思われる。その際には情報セキュリティも大事になってくる。子どもたちと教員がどのようにネットワークを利用するかというイメージを具体化して、共有していきたい。

〈議長〉このゴールポストは動いていくもの。日進月歩であることが前提である。市役所と学校はデスクネットというツールでネットワークがつながっており、出勤管理等ができるようになっている。これは小松大学もつなげていく。教育の IoT 化を進めていくと良い。

〈中惣委員〉家庭との連携はどのようになっていくか。各家庭では ICT を取り入れている家庭と、そうでない家庭がある。それぞれの家庭でお子さんの、元々の ICT の習熟度が異なる。子どもへの教育も大事であるが、親御さんへの ICT 教育の理解なども大事になっていくのでは。

〈石黒教育長〉ICT 以外にも家庭の格差はたくさんの点である。きめ細かく家庭と連携していきたい。今、全ての学校に ICT の環境が整っており、より質の高い ICT 教育ができる。ICT 教育を行いやすい環境にある。

〈事務局：新名指導主事(参事(総括))〉各家庭で得意、不得意な面はある。学校環境として、来年度、全小中学校にタブレット端末を整備する。家庭でできない分は学校で学べるようにモノと時間を確保していく。

〈議長〉参観日などで、レゴプログラミングのデモンストレーションを行うと親御さんへの理解も深まるのでは。市としても必要なものは支援していく。

〈蘆邊委員〉全員、足並みを揃えて実施していく方がよいと思う。

〈北村委員〉・文部科学省から、「社会を見据えた教育」という視点がでている。論理的指標が大事になっていく中で、プログラミング教育ということが出てきた。全国の教育委員会で行うと思うが、小松では小松らしさが必要になってくると思う。子どもたちの状況に合わせた取り組みが大事になってくる。

- ・教員にも温度差がある。教員方には「ICTを学ぶ」のではなく、「ICTを活用することを学ぶ」ということを周知していったほしい。ICTは目的ではなく、何かをするときの手段であるという点を周知していったほしい。
- ・小松ではサイエンスヒルズを活用することが大事。学校のカリキュラムと連携し、地域にある大学、企業などとともに、教育効果を高めていくことができる。
- ・ただ論理的思考を育成すると言っても、教育の基本は人と人。心のつながりを忘れてはいけない。先生方はまじめであるので、これらを、誤解を抱えたまま進まないように周知していくことが必要。

〈石黒教育長〉・サイエンスヒルズがあるということは、小松の教育にとって大きなメリットである。小学校の全てでプログラミング教育を体験している。その中でも10校にはモデル校として、より先進的な教育を実践し、改善しながら全校に展開していく。

- ・プログラミングのコースは3コースがあり、初めのコースは幼児や親子で学べるコースは申し込み倍率が3倍の人気がある。そのほかの2コースも満員の人気がある。
- ・今後の展望としては、ロボット運動会のような大会を小学校でも開きたい。今からICTは進み、そのような社会では論理的思考はより必要になってくる。ロボットを触りながら、友達と一緒に考え、問題を解決していくという学びが、小松での取り組みの大きな特徴である。

〈北村委員〉・今ほどの話のとおり、先生が主体でなく、子どもたちが主体的に取り組む方がよい。

- ・先生方はこの数年間で、ICT教育をしっかりとしていかななくてはならない。教育の目的を隅々まで、しっかりと周知徹底していくことが大事であり、ぜひお願いしたい。

〈議長〉・先生の学びだけでなく、企業の方に補助員として協力いただいたり、大学生にインターンで入ってもらおう。子どもたちの部活としてプログラミングをする部活など

もあってもよい。子どもたちが自ら考え、取り組むような活動をお願いしたい。それに必要なものは準備していきたい。

- ・また、本日の資料の写真であるとおり、このような取り組みの写真ではメガネをかけている子が多いように思う。ぜひ、近眼にならないような取り組みも医学的見地から進めてほしい。

(2) 児童・生徒の現状と成果

〈事務局：笠巻管理主事〉【資料】により説明

【中学校における取り組み】

- ・今年度教育委員会では、中学生が活躍する場をつくることを積極的に行ってきた。
- ・中学生サミットについては、今年で3年目を迎えた。生徒が主体となって取り組む姿が評価され、来年度行われる中学生サミット近畿大会に小松市の生徒が先進的な取り組みを発表する予定である。
- ・加賀地区中学生意見発表大会では、小松の生徒が上位を占める結果となった。
- ・ビブリオバトルでは、普段学校で目立たない子が生き生きと自分のおすすめの本を紹介する姿が見られた。現在は中学生と高校生を対象に行っているが、来年度は小学生を対象にしたものも開催する予定。
- ・今年度から、3年間部活動で努力を続けた生徒などを「部活動表彰」として表彰することを行っている。生徒の自信につながるような取り組みと位置づけている。
- ・学校においては小松市の生徒指導の重点事項があり、「生徒が主体となった活動の推進」を掲げている。ある学校では、平成27年度から28年度にかけて、大きく中学校の不登校生徒の数を減らしている。その学校では自治活動を積極的に行っており、自分たちの力で学校の様々ことを運営してきたとのことであった。また教育相談体制の充実にも取り組んでおり、遅刻や欠席の情報を先生方で共有し、みんなで声をかけていくことで安心感につながっていったのではないかとのことであった。このような取り組みが各中学校で行われており、全ての学校で成果があるわけではないが、創意工夫を凝らした取り組みを進めてもらっている。
- ・さらに今年度は原則として日曜日の部活動は行わないということにした。今年度の4～7月における月曜日の欠席児童数は昨年度に比べ8.3%の減少となっており、月曜日の保健室利用は、6%の減少となっている。直接的な因果関係は分析中であるが、このような状況にある。

【小学校における取り組み】

- ・教育委員会では今年度、小学校2校をモデル校として、児童とふれあう時間を意図的に確保するという取り組みを実施した。これにより、不登校児童数や保健室登校数が減少した。一方で欠席者は1校で増加している。
- ・この取り組みの感想として、子どもたちは楽しいといった感想があり、先生からもしっかり時間がとれて良かった等の感想があった。

【小松市の不登校児童生徒について】

- ・平成27年度は全国や県平均と比べて小松市は多い値であったが、平成28年度は全国

平均と同レベル、県平均を下回る値となった。平成 29 年度も減少している傾向がある。

- ・小中学校における様々な取り組みが成果をあげており、月 10 日以上欠席者が年々減ってきている。しかし、以前として 100 名を超えているため、今後もしっかり取り組み、子どもたちが笑顔で登校できる学校づくりに邁進していく。

〈中惣委員〉・日曜の部活を無くすことで、欠席率が下がった面もあったかと思うが、デメリットもあると思う。日曜にダラダラしてしまい、生活の乱れにつながり、月曜の朝に起きられないなどの問題が起きることが考えられる。親御さんにそうならない様に周知が必要。

- ・昔は休み時間でも先生が教室にいたり、姿が見えるところにいて生徒を見ていた。これにより陰湿ないじめや不登校などは少なかったと思う。先生が忙しいことは分かるが、日常的に先生が見ていることが安心感につながり、生徒も先生に相談しやすくなる。これらを少しずつでもやっていくことで不登校の改善につながるのではないかな。

〈事務局：道端教育次長〉日曜日に部活が無くなる点で不安に思う気持ちはあると思うが、家庭と学校の意味疎通をしっかりとしていくことは大事だと考えている。十分に検証も行いつつ、連携していきたい。

〈議長〉日曜日などは、本来は家族とのふれあいの日にできるとよい。家族とのふれあいが少ないと子どもたちの変化に気づけないので、家庭とのリンクは大事。最近は土曜学校などをあまり聞かないが、日曜学校なども必要になってくるのかもしれない。

〈蘆邊委員〉・不登校が減ってきているのは、自治参加の効果がでてきているのではと思う。これからも生徒同士の自発的な活動を進めていってほしい。

- ・部活は日曜に行わないことになっているが、練習試合は日曜日にあると思う。これらも日曜にならないようになるとよい。
- ・休み時間の活用、先生方は多忙だと思うが、ふれあう時間を増やしていってほしい。

〈石黒教育長〉・子どもたちの欠席・不登校の数値を出したが、その根本には子どもたちの心があり、大事にしないといけない。働き方改革とも関連してくるが、子どもたちのための学校であるため、その教育観を共通の認識として浸透していくことが大事である。

- ・「子どもたちのための働き方改革」として、仕事を削るのではなく、教育をしっかり検証し、見直すよい機会であると改めて感じた。
- ・これから学習指導要領が変わる。なぜ変わるのか、このような背景も含めて先生方に理解を深めてもらうように周知していく。

〈吉原委員〉やはり取り組みと成果の紐付けは難しいと思うが、これまでの話を聞いていると、いろんな取り組みがまずは効果として出ていると思う。楽観はできないが、

当面は今の取り組みを進めていってもらいたい。

〈議長〉今回は良くなった事例であったが、悪くなった事例もあると議論が広がる。

〈北村委員〉・自治活動は将来にも大変役に立つので、継続的にやってほしい。

- ・不登校については、学校の組織力が大事である。担任だけでなく全ての先生方が連携して取り組んでいただければと思う。また、家庭との連携も大事になってくる。
- ・先生方は忙しいと思うが、2学期が始まるタイミングで不登校が多いため、夏休みを活かすことが大事であると思う。家庭に出向いて親と会話することも大事。
- ・幼保、小中といった一体的な教育の連携も大事になってくる。
- ・先生方は授業を大変がんばっていると思うが、子どもたちの心の変化に気づく力を養うことも重要である。
- ・子どもたちの学力だけでなく、人と人のつながりを実感することも大事。親子ボランティアなどで集団行動を体験することにより、不登校の改善につながるのでは。

〈石黒教育長〉各学校、学校内でも様々な考え方があり、取り組みが多様化してきている。きめ細かくしっかり対応していきたい。

〈議長〉平成30年4月から松東みどり学園が開学する。この学校でテーマを決めて新たな取り組みをして、データ化してモデルにしていっての方がよい。教育委員の方々の意見を聞いて、義務教育学校や一貫校を広げていくことが必要では。

〈北村委員〉みどり学園は、単なる学校規模の適正配置が目的での広域通学となってしまうと残念である。新しい学校として将来の子どもたちのために、一貫校としての特色・独自性や、新学習指導要領を踏まえた広域通学の検討を進めてもらいたい。

〈事務局：道端教育次長〉おっしゃるとおりであるし、適正規模という面も大事である。学校の特色なども踏まえて、地域とともに進めていく。

〈事務局：山本教育次長〉どんな学校をつくっていくか、どんな教育が必要かといった、将来のビジョンを持って検討委員会の皆様と検討していきたい。

〈石黒教育長〉小松の教育は行政からの支援も多く、恵まれている。その代表が松東みどり学園である。この学校は充実した環境の中で、大人たちにも見守られた教育が展開される。生徒の人数だけでなく、教育の質を考えた新しい学校づくりを進めていく。小松市内の教育のモデルとなる学校であるため、全力で取り組んでいく。

○閉 会